

自分自身にできそうな被災地の農業再生について

現状、自分は放射性物質による汚染に関しては、殆ど素人のようなものにすぎません。講義で少し知識を付けたとはいえ、その知識を即座に実際の除染に役立てることができるかというと、そこまで深くは理解できていないでしょう。

そんな自分に何ができるのか。例えば、除染方法の研究といった、放射性物質に対する深い理解を必要とする仕事はできなくとも、既に開発されている、まがい工法のような、個人の人力によって為すことのできる除染を、手伝うことはできるかもしれない。頭で役に立ってないならば、手足で役に立つことも方法の一つではないでしょうか。

これは除染に限ったことではありません。農地の除染が終わっても、被災地の農業には、農地の荒廃、風評被害、農業従事者数の不足など、様々な問題が残っているでしょう。

農業従事者の不足に関しては、自らが農業をする以外に方法がないので、力になれるかは分かりませんが、農地の荒廃に関しては、長期休暇を利用して農地を耕しなおすのを手伝うことができるかもしれない。

また、風評被害に対しては、地道に、農産物の販売イベントを積み重ねていくとしても、そのイベントには人手が必要なはずで、そうしたイベントを手伝いにいくことだってできるでしょう。

どうしても、学生の身で、かつ中途半端にしか知識を有さない現状、できることは限られます。今、自分自身にできそうなことは、おそらく、除染後の農地の回復、また、風評被害からの脱却のための施策の補助などの、「人手」となることだと、私は考えます。そして、その傍らで役立つ知識をつけていくしかないでしょう。